2026 年 9 月吉日
公益財団法人日本小動物医療センター
国立大学法人山口大学
かもがわ動物医療センター

～ 犬の抗 PD-1 抗体を、研究から企業治験の段階へ ～

犬の口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）に対する抗イヌ PD-1 抗体の企業治験を 3 施設で開始

公益財団法人日本小動物医療センター（所在地：埼玉県所沢市）、国立大学法人山口大学共同獣医学部（所在地：山口県山口市）、かもがわ動物医療センター（所在地：京都府京都市）は、日本全薬工業株式会社と連携し、犬の口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）に対する「抗イヌ PD-1 抗体」の企業治験を開始します。本治験は、動物用医薬品としての承認を目指して行われる企業治験で、日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター、山口大学共同獣医学部附属動物医療センター、かもがわ動物医療センターの 3 施設で実施されます。

＜犬の口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）について＞

近年、獣医療の進歩によりペットの寿命が延びる一方、高齢化に伴い悪性腫瘍の発症も増加しています。犬の約 18%、猫の約 20%が悪性腫瘍を原因として亡くなっており、人と同様に悪性腫瘍は主要な死亡原因の一つとなっています（※1）。なかでも、犬の口腔内に発生する悪性黒色腫（メラノーマ）は、悪性度が高く、局所での浸潤や肺などへの遠隔転移を起こしやすい腫瘍の一つです。手術や放射線治療などが主要な治療法となりますが、進行例や再発例では治療選択肢が限られ、とくに有効な全身治療が存在しません。また、口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）以外にも口腔扁平上皮癌をはじめとするそのほかの難治性腫瘍に対しては、いまだ十分な治療法が確立されておらず、既存の治療法とは異なる新たな治療法の開発が求められています。

＜抗 PD-1 抗体について＞

ヒト医療では、抗 PD-1 抗体は、がんに対する免疫反応にかかる「ブレーキ」を解除し、患者自身の免疫反応を

利用して腫瘍を攻撃することを目指す、がん免疫療法として、複数のがんの治療に用いられています。一方で、ヒトのがん治療で使用されている抗 PD-1 抗体を犬にそのまま使用することはできません。今回使用する治験薬は、犬で使用することを前提に開発された「抗イヌ PD-1 抗体」です。

＜これまでの歩み＞

2017 年～　獣医師主導臨床研究を開始

進行した悪性腫瘍を持つ犬を対象に臨床研究を開始しました。

多施設で臨床データを蓄積

複数の動物医療施設が参加し、犬の口腔内悪性黒色腫を含む悪性腫瘍について臨床データを蓄積してきました。

150 頭を対象とした前向き臨床研究

進行した口腔内悪性黒色腫の犬 150 頭を対象とした前向き臨床研究を実施し、その結果が 2026 年に国際的な学術誌「Journal for ImmunoTherapy of Cancer」に掲載されました。

2026 年 8 月～　企業治験を開始

これまでの研究成果をもとに、動物用医薬品としての承認を目指す企業治験を開始します。

【研究から企業治験へ】

今回の企業治験に至るまで、山口大学共同獣医学部の研究グループと日本全薬工業株式会社を中心に、長年にわたって研究が進められてきました。

今回の企業治験は、定められた治験実施計画書に基づいて実施されます。抗イヌ PD-1 抗体は、現時点では動物用医薬品として製造販売承認を取得していない開発中の薬剤であり、本治験において犬の口腔内悪性黒色腫に対する有効性および安全性を評価します。治験で得られたデータは、将来、動物用医薬品として製造販売承認を申請する際の資料として使用される予定です。

＜関係者コメント＞

日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター　免疫治療科　科長
兼　山口大学共同獣医学部　教授（細胞デザイン医科学研究所　副所長）
水野　拓也

「この抗体の研究を始めてから、数多くの飼い主の皆さまと獣医師の先生方にご協力いただき、臨床データを積み重ねてきました。今回、動物用医薬品としての承認を目指す治験の段階へ進めたことは大きな節目です。本治験を通じて有効性および安全性を適切に評価し、製造販売承認申請に必要なデータを収集できるよう、3 施設と企業が連携して治験を進めます。」

かもがわ動物医療センター 院長
（京都動物医療センター 腫瘍科 科長）
萩森 健二

「犬の口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）は、進行例では治療選択肢が限られ、新たな全身治療が求められてきました。臨床研究に携わってきた立場として、今回、動物用医薬品としての承認を目指す企業治験へ進んだことを大変意義深く感じています。この治験を通じて、将来、一頭でも多くの犬とご家族に貢献していきたいと考えています。」

＜治験への参加について＞

本治験では、犬の口腔内悪性黒色腫（メラノーマ）と診断された犬のうち、定められた条件を満たす犬が対象となります。「愛犬が治験の対象になるか知りたい」という段階でもご相談いただけます。
ただし、治験への参加には条件があり、すべての犬が参加できるわけではありません。
また、通常の診療とは異なり、治験実施計画書に沿って検査や治療を行うため、参加前の検査や決められたスケジュールでの来院などが必要となります。参加を希望される場合は、まず現在診療を受けている動物病院の獣医師から、下記の実施機関へご相談いただくことをおすすめします。

注意事項

・個々の全身状態や腫瘍の進行具合によっては治験を受けることができない場合がございます。
・全ての治験について、細胞診・病理組織検査などを含め必要な検査を行う必要がございます。
・2 週間に 1 回、計 6 回の来院が必要となります。
・治験期間中に使用できる薬剤には制限がございます。

＜実施機関＞

埼玉県／日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター

動物の QOL を第一に、ご家族に寄り添った最善の獣医療を提供する、日本小動物医療センター附属のがんセンター。ホームドクターとの連携を大切にし、エビデンスに基づく先端獣医療の実践と、新たな獣医療の研究開発に取り組んでいます。

所在地 ： 埼玉県所沢市東所沢和田 1 丁目 10 番 4 号
事業内容： 犬・猫を対象とした高度獣医療の提供、臨床研究・開発、教育活動など
Web サイト：https://jsamc.or.jp/

山口県／山口大学共同獣医学部附属動物医療センター

高度な専門診療と二次診療を担い、動物とご家族に寄り添った質の高い獣医療を提供する、山口大学共同獣医学部附属の動物医療センター。地域の動物病院との連携を大切にし、先端的な獣医療の実践と、教育・研究を通じた獣医学の発展に取り組んでいます。

所在地：山口県山口市吉田 1677-1

事業内容：犬・猫を中心とした高度獣医療の提供、臨床研究、獣医学教育など

Web サイト：https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuamec1/

京都府／かもがわ動物医療センター

予防・一般診療から高度医療まで幅広く対応し、腫瘍科をはじめとする専科診療にも力を入れる動物医療センターです。80 列 CT を備え、各分野の獣医師が連携したチーム医療を行うとともに、臨床研究や新たな治療法の開発にも取り組んでいます。

所在地：〒606-0812 京都府京都市左京区下鴨上川原町 44

事業内容：犬・猫を対象とした一般診療、専門診療、高度獣医療の提供、臨床研究など

Web サイト：https://www.kamogawa-ac.jp/

【本治験に関するお問い合わせ】

水野 拓也

・日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター 免疫治療科 科長

E-mail：ta.mizuno@jsamc.or.jp

・山口大学共同獣医学部 教授（細胞デザイン医科学研究所 副所長）

E-mail：mizutaku@yamaguchi-u.ac.jp

萩森 健二

・かもがわ動物医療センター 院長（京都動物医療センター 腫瘍科 科長）

E-mail：hagimori@kamogawa-ac.jp

【報道に関するお問い合わせ】

日本小動物医療センター　広報
TEL：04-2946-9777　E-mail：pr-team@jsamc.or.jp

山口大学 総務部総務課広報室
TEL：083-933-5007　E-mail：sh011@yamaguchi-u.ac.jp

かもがわ動物医療センター　萩森 健二
E-mail：hagimori@kamogawa-ac.jp

＜出典元＞

※1　日本獣医師会雑誌 2022 年 75 巻 6 号 p. e128-e133

＜参考資料・根拠＞

1. Igase M, et al. Caninized PD-1 monoclonal antibody in oral malignant melanoma: efficacy and exploratory biomarker analysis. J Immunother Cancer. 2026;14:e013623. https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41571458/

2. 山口大学（2026 年 1 月 23 日）「犬の口腔内悪性黒色腫に対する抗 PD-1 抗体の大規模臨床試験を実施」https://www.yamaguchi-u.ac.jp/weekly/46792/index.html

3. 農林水産省 動物医薬品検査所「GCP」https://www.maff.go.jp/nval/GLP/GCP.html

・本プレスリリースは、治験への参加犬募集を目的とした情報提供です。
・本治験への参加により、治療効果が得られることを保証するものではありません。
・予想される不利益（副作用等）や治験期間中の診療、費用負担等については、実施機関から個別にご説明いたします。